

図書紹介

◎地球温暖化と森林ビジネス―「地球益」をめざして（小林紀之著 日本林業調査会 215頁 2003 1,905円）

本書は、京都メカニズムや森林吸収源問題の専門家として、国内外の委員会やシンポジウム、大学などで幅広く活躍する著者が、これまでに得た知見をとりまとめたものである。京都メカニズムとは、自国での温室効果ガス（GHGs）削減活動の代わりに、GHGs 排出権を他から買い取ったり、他国で GHGs 排出削減活動/吸収活動を行ったりすることで代替する仕組みであるが、著者は、これを新たな森林ビジネスのチャンスでもあると位置づけ、これに取り組もうとする事業者の「手引書」として本書が役立つことを期待している。

本書の特徴は、まず、地球温暖化問題や京都メカニズムに関する重要なトピックが、「Q&A 方式」で非常にわかりやすく解説されており、更に、単に制度的な解説にとどまらず、国内外における森林ビジネスの現状も詳しく紹介されていることであろう。同様の書籍・資料は他にもないわけではないが、本書ならではの特色としては、「地球益」を考えた「森林ビジネス」を目指さなければならないとして「はじめに―本書がめざすもの」に込められた著者のメッセージであろう。著者は、京都メカニズムという「補完的措置」は「すい取り紙」、「かけ込み寺」であり、温暖化対策をこれに頼るのは本来お門違いとしつつも、これに頼らざるを得ない現実も認める。著者が、「ビジネス」と「地球益」という2つのキーワードを用いるのは、地球環境改善の趣旨を踏み外さないで「すい取り紙」や「かけ込み寺」を用意できる専門家、しかもより低コストでシビアに取り組めるプロが必要だ、という問題意識からと思われる。

さて、本書の構成であるが、本書は大きく「基礎編」、「活用編」、「事例編」、「参考」に分かれている。「基礎編」では、地球温暖化および京都メカニズムを巡る多岐にわたる議論を分かりやすく整理しており、読者が全体像を把握する手助けとなる。「活用編」では、「森林ビジネス」となる「CDM」、「JI」、「排出量取引（ET）」について、制度を詳細に解説すると同時に、実施に際しての重要な考え方、データ、課題を述べている。「事例編」では、著者ならではの豊富な経験に基づいて、イギリスや世銀などの排出権取引制度、オーストラリアやインドネシアなどでの植林事業、政府・自治体や企業などによる日本国内の排出権取引制度への取組、日本政府の京都メカニズム支援策など、「森林ビジネス」を巡る最新かつ具体的な動向が紹介されている。また、京都メカニズムを巡っては様々な専門用語が飛び交っているが、本書では、これらの用語が「参考」に付されている「用語解説」に限らず本文中の随所で解説されており、容易に参照できるのは大変便利である。

本書は、「森林ビジネス」にかかわりを持つ人にとって必読の書と言えよう。

（横田康裕）